

凡例

二重線：削除

強調，下線：追加

第1編 計画設計の基本

1.1.1 平面交差点計画設計の意義

- ・交通事故は出会い頭事故が多いにも係わらず、この章全体として追突事故に偏った記述が多いと思われる。設計を実施するものが交差点において発生する事故は追突ばかりと勘違いしないように配慮すべき（警察庁）
- ・内容が簡略化すぎる（鹿田委員）

○作業の進捗状況

事故類型の記述を修正

一部記述を追加（必要な要点のみ記述することにとどめる）

（記述案）

1. 1. 1 平面交差点計画設計の意義

（1）設計の意義

平面交差点が、道路網全体における交通容量上、及び安全上の隘路になっていることは周知の事実である。平面交差点では、複数の方向からの交通流（車両及び歩行者）が同一平面を利用するため、交通容量の低下が生じ、交通渋滞が発生しやすい。そのうえ、安全対策として信号機や一時停止などの規制が施されるため、単路部と比べ事故類型では、「追突」、「出会い頭」事故の占める割合が高くなることも事実である。また、交通事故件数（平成12年）からみると、市街地部で約6割、非市街地部で約5割が平面交差点及びその付近で発生していることも事実であり、道路交通の安全と円滑にとって平面交差点の適切な計画・設計ならび運用が極めて重要であることは言うまでもない。

一方、立体交差では、容量的な問題は大幅に解決されるものの、建設費用の問題や、日照、電波障害など、様々な問題が発生する可能性がある。幾何構造及び交通制御の面からいえば、平面交差の設計は立体交差の設計より、一般的にはるかに面倒で熟練と神経とを要する作業である。その理由は、資金と用地を投ずることにより交差交通流を立体に分離する代りに、平面交差の幾何構造と交通運用を、設計者の技術力によって適切に計画・設計することで安全と円滑を保つ必要があるからである。

個々の道路は交差点によって結ばれ、はじめて面的な交通需要に応えうるネットワークとして機能するのであって、道路網の形成と道路交通において、平面交差点の果たす役割はきわめて重要である。そして、既存の平面交差の構造および交通運用方法を適正に改良することによって、交通事故の減少、交通容量の向上など、道路網全体として円滑化が図られることが、これまでの事例により実証されている。